

運営事務局：株式会社コングレ 九州支社内
〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神1-9-17-5F
TEL:092-716-7116・FAX:092-716-7143
E-mail:jhm2012@congre.co.jp

第14回日本医療マネジメント学会学術総会・
日本医療マネジメント学会第11回九州・山口連合大会
ホームページ
<http://www.congre.co.jp/jhm2012>

支部学術集会開催報告

第8回山形県支部学術集会

世話人：公立学校共済組合東北中央病院病院長 田中靖久



会場風景

2011年7月30日、山形市保健センター（霞城セントラル3F）において第8回山形県支部学術集会を開催しました。「心温かい信頼の医療を目指して」をメインテーマに、一般口演、ラン

チョンセミナー、シンポジウムおよび特別演題を行い、関係者を含め35施設333名の方々に参加いただきました。

特別講演では、山形大学大学院医学系研究科医療政策学講座教授の村上正泰先生にご講演を頂きました。多角的な視点から分析された医療制度の課題と今後の展望についてのご講演は、病院経営ならびに医療マネジメントに大いに役立つ内容であり、この度の学術集会に相応しい特別講演となりました。

シンポジウムは「東日本大震災を経験して～これからの災害医療を考える～」をテーマとし、3月11日に発生した震災後の対応と今後の課題などの報告や討論が行われ、緊急時の医療に限らず日常の診療にも役立つ多くのヒントを見出すことができました。

一般口演は28題の発表があり、医療安全、地域医療連携及び院内感染などの例年の研究に加え、今回は大震災に関係した演題も含め幅広い分野で熱心な発表と討議がなされました。

ランチョンセミナーでは、平沼高明法律事務所副所長で弁護士の平沼直人先生より「医療従事者が安心して医療に専念できる環境づくりを目指して」のご講演を頂きました。医療訴訟の現状と問題点についての分かり易い解説に、弁護士の立場から見る対処法などを学ぶことができました。

多数のご参加をいただき、本学術集会を盛会のうちに無事終了することができました。ご指導とご協力いただきました関係各位へ感謝申し上げます、開催の報告といたします。

第18回静岡県支部学術集会

当番世話人：藤枝市立総合病院泌尿器科部長 平野恭弘

第18回静岡県支部学術集会は2011年8月6日に藤枝市立総合病院において144名が参加し開催されました。一般演題として15題ご発表いただきました。特別講演では、独自の糖尿病療



会場風景

養士育成システムを構築し活動しておられる、きくち内科クリニックの菊池範行先生に「静岡県西部糖尿病療養指導士(SSLCDE)制度の立ち上げと歩み」と題してご講演いただきました。毎回恒例の「クリティカルパス討論」も行いました。前回までは同じ診療行為に関する院内クリティカルパスについて各施設間の比較検討をし、ベンチマークとなり得るクリティカルパスとはどんなものか討論してきました。今回は、こうした院内クリティカルパスに関する討論に加え、癌診療に関する地域連携クリティカルパスの整備が他の癌と比べ先進している前立腺癌および乳癌について、院内クリティカルパスおよび地域連携クリティカルパスを持ち寄っていただき熱い討論が行われ、本学術集会は盛会に終わりました。

第9回高知県支部学術集会

支部長：高知医療センター病院長 堀見忠司



会場風景

第9回日本医療マネジメント学会高知県支部学術集会は、2011年8月21日(日)に「高知市文化プラザかるぼーと」で開催されました。今年は、高知市内の凶南病院病院長の久直史先

生の世話人のもとに、過去最高の70題の演題が発表され、また参加者は事前登録だけでも360人が登録され、当日はスタッフを除き482名の多数の参加者が集まり、高知県内の地方会や支部会などでは最も会員数が多い会になりました。また今年の特別講演は、岩崎夏海氏に、『なぜ今ラッカーが求められるのか』をご講演いただき、多数の方が拝聴させていただきました。

本会では医療の管理と運営が研究されています。その研究課題として、クリティカルパス、医療安全、院内感染、医療連携、電子カルテ、NST、患者サービスなどのほかに、今年は災害医療も追加され、広範な研究課題を議論する極めて重要な場となっており、高知県でも多数の医療関係者が医療マネジメントに対して高い関心と認識に目覚めてきました。